

# 瀬戸内海 東部地域

## 備讃・鳴門 六甲・紀淡



# 瀬戸内海 東部地域

備讃・鳴門  
六甲・紀淡

## 目次

美しい季節の装い

瀬戸内海の四季.....2  
◆心の鏡 東山魁夷.....2

繊細な自然と環境文化の融合

瀬戸内海国立公園東部地域のプロフィール.....10

鳴門海峡、新たな風景との出会い

鳴門公園.....16

千畳敷／お茶園／鳴門山展望台／銚子の口展望所・相ヶ浜・孫崎

◆大塚国際美術館.....18

◆渦の道.....19

四国に対峙する花の里

南淡路.....21

休暇村南淡路／大鳴門橋記念館／吹上浜／灘黒岩水仙郷

明石海峡を臨む

北淡路.....22

淡路島国営明石海峡公園／県立淡路島公園／淡路ハイウェイオアシス／あわじ花さじき／淡路夢舞台

備讃瀬戸に突き出たテーブル上の台地

五色台.....24

休暇村讃岐五色台／五色台ビジターセンター／自然観察路

◆ビジターセンターの催し.....26

瀬戸内海国立公園誕生の鍵

鷺羽山.....27

鷺羽山ビジターセンター／第二展望台／山頂展望台／自然研究路

◆ビジターセンターの催しとパークボランティア.....29

神戸を見下ろす好展望

六甲山.....30

六甲山自然保護センター／ハイキングコース

一年を通じて観光客が訪れる

紀州加太.....31

休暇村紀州加太／展望台・砲台跡／友ヶ島

瀬戸内海の成因と地質をさぐる

瀬戸内海はどのようにしてできたか.....32

渦潮の秘密をさぐる

瀬戸内海の潮流の不思議.....34

渡りのルートをさぐる

鳴門海峡、もうひとつの魅力 タカの渡り.....35

海を見下ろす屈指の展望所とふり仰ぐ山

屈指の展望所.....36

三熊山／論鶴羽山／大坂峠／与治山／屋島／城山／由加山／王子が岳／十禅寺山／金甲山

ふり仰ぐ山.....39

五剣山／飯野山／象頭山

船で巡る瀬戸内海の島々と白砂青松の浜辺

小豆島.....40

スカイラインから銚子浜へ／寒霞溪

◆「二十四の瞳」の舞台となった小豆島.....41

渡船で島めぐり.....42

女木島・男木島／与島／本島／広島／紫雲出山・粟島

白砂青松の浜辺.....44

和歌浦／由良・成ヶ島／慶野松原／津田の松原／

渋川海岸／出崎海岸／牛怒海岸／相生湾

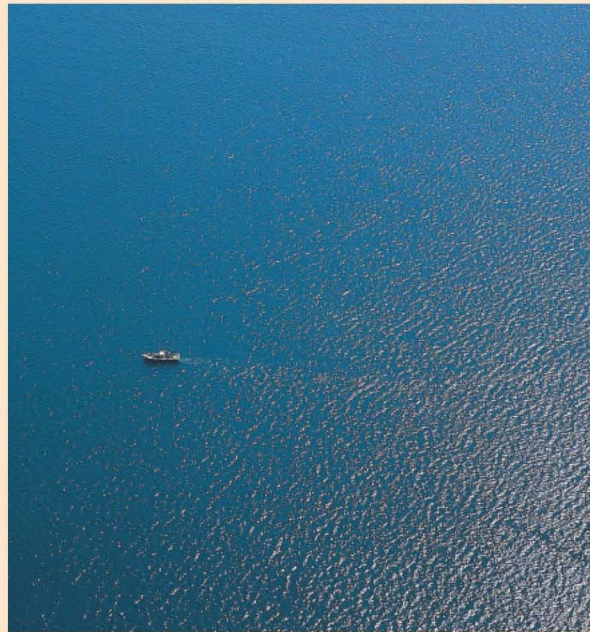
自然とともに育まれた文化

瀬戸内海 人と自然・くらしの図鑑.....46

国立公園の誕生

瀬戸内海の風景の物語.....48

主要機関・交通機関・観光施設問い合わせ一覧.....52



# 鳴門公園

なるとうえん

お茶園展望台からは海上の飛鳥がアクセント

鳴門の地名の由来は、鳴る瀬戸、つまり潮流の鳴る狭い場所という意味である。「ここで見せる複雑で激しい潮流は、古来、海の難所として恐れられ、世界三大潮流のひとつとなっている。

## 六つの視点場

鳴門公園を楽しむために、次の六つの視点場を紹介する。いろいろな視点から鳴門海峡を眺めて、新たな風景との出会いを発見してほしい。

### ◆千畳敷

千畳敷と呼ばれるが、実際には畳敷で三千畳分以上の広さがある。鳴門海峡に向かって広い展望台が設けられており、渦潮を見る場所として昔から最高の地点とされてきた。

海峡を真横から眺めることができるので、白波を立てて流れるような瀬戸が、視野いっぱい広がる。間近に大鳴門橋を仰ぎ、その行く手に淡路の山々と、まことに雄大な眺めである。まさに四国の入口に在るといふ実感が湧いてくる視点場だ。

ここは鳴門公園の中心で、みやげ物店や食事処、ホテルなどが立ち並ぶ。中央の広場には枝ぶりの良い松の木が並び、その



周りのベンチで憩う人も多い。

### ◆お茶園

昔、阿波藩主蜂須賀侯が茶屋を設けて観潮した所で、当時はお茶屋と呼んでいた。今のお茶園の名もそれにちなんだものである。千畳敷よりも海峡から少し離れたこの場所からは、鳴門海峡をやや斜めに観望することになる。緑の松を前景に、海上には小島が浮かび、かつて日本中の銭湯の壁を飾っていたような、なつかしい景色が広がっている。

沖合約一キロの海上に浮かぶ飛鳥は、別名ビャクシンともいわれる。

大鳴門橋の全景が見渡せる鳴門山展望台



千畳敷の背後、鳴門山山頂の展望台へは東洋一の高低差を誇るエスカレーター「エスカヒル鳴門」で。視界は鳴門公園の中でもっとも広く、鳴門海峡の潮

の流れや、大鳴門橋の全景、瀬戸内海側の小豆島、紀伊水道側の和歌山方面まで三百六十度ぐらりと見渡すことができる。



エスカヒル屋上からの眺め

渦潮の海の方はかなり見がちだが、ここではぜひ、南西側、四国の山々を眺めたい。紀伊水道の水平線から右肩上がりに段々高まるスカイライン。青と紫が美しく調和した深い色調、なつかしく、やさしい風合いの山並みだ。条件がよければ徳島県の最高峰、剣山も望むことができる。朝夕の景色は格別だが、真っ赤な太陽が鳥田島に沈む

と、その背後から天頂にかけて空が真っ赤に染まる景観ははずらしく、秋は特段に美しい。

### ◆鏡子の口展望所・相ヶ浜



エスカレーターで一気に展望台へ

千畳敷から五分程下った相ヶ浜と沖合の裸島との間は、堅い岩礁の浅く狭い水路のため、激しい潮流が行き来しており、鏡子の口と呼ばれている。この水路を見下ろす展望所に立つと、水しぶきを上げて躍動する海の姿に思わず引き込まれそうになる。ここは、鳴門海峡の潮の流

れを最も間近に見ることができるとなる視点場だ。満ち潮のとき、海水は南から北へ流りながって流れ込む。ドドゥと地響きするようその音に、まるで大きな渓谷にいるような錯覚を覚えさせられる。また、引き潮のとき、今度は北から南へ流れ出す。岩間にザ

ザーと響き渡る潮騒を聞いてみてほしい。潮風を受けながら海のリズムに触れていると、自然との心地よい一体感が味わえるはずだ。

### ◆孫崎

相ヶ浜から海沿いの遊歩道を行くと、白亜の灯台が待つ孫崎灯台に着く。右手に鳴門海峡付近の激しい潮流、左手に静かな瀬戸内海と、対照的な光景を同時に見られるのが面白い。

脂のりきつて最も美味しい。その美しい姿を傷めないために、一尾ずつ手釣りで釣り上げる一本釣りが今も行われている。また、水面に四角く並んで浮かぶのは、ワカメの養殖のブイの列。二月〜五月の収穫期には、長い柄付きの鎌で刈り取ったワカメで浜はいっぱいになる。ここは、海に生きる人々の営みを身近に感じることができる視点場なのだ。



秋から早春、ワカメの養殖が行われる



孫崎灯台では穏やかな瀬戸内海を望める。踊り流れる潮の躍動感を満喫できる相ヶ浜